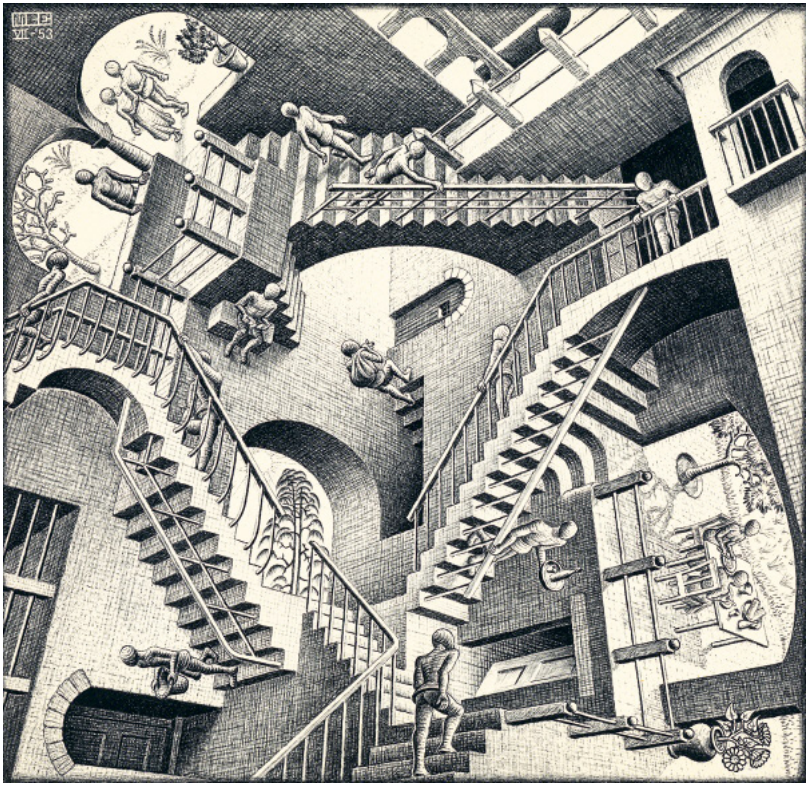
# TAD Letter 26

富山県美術館
アート＆デザイン



北日本新聞創刊140周年記念

# エッシャー 不思議のヒミツ

## 2024年4月27日（土）- 6月30日（日）

M.C. エッシャー《写像球体を持つ手》　1935年制作　リトグラフ
M.C. Escher Foundation Collection, The Netherlands.
All M.C. Escher works © 2024 The M.C. Escher Company, Baarn, The Netherlands.
All rights reserved　mcescher.com

マウリッツ・コルネリス・エッシャーは、1898年にオランダで生まれました。建築家を目指して建築装飾美術学校に入学したエッシャーは、教師のサミュエル・イェッスルン・ド・メスキータの勧めもあり、グラフィックアートの道に転向し、徹底的に版画技術を身につけました。「だまし絵」的発想だけでなく、卓越した版画技術も評価されるエッシャーですが、その基礎は学生時代に築かれたといえます。

画家としてデビューした青年期のエッシャーは、イタリアの地に滞在します。彼はイタリアの美しい風景や街並みに制作意欲を喚起され多作となり、後の代表的作品のルーツとなる作品も制作しました。

エッシャーの転機は、1936年にスペインのアルハンブラ宮殿再訪を契機に、幾何学模様に魅了されたことです。風景画が中心の作風は一変し、「テセレーション（敷き詰め）」作品を多数制作するようになりました。その後、「メタモルフォーゼ（変容）」作品や、錯視などを取り入れた、独自の世界観の作品を次々と発表しました。

世界中でエッシャー作品が今もなお高い人気を誇る理由は、版画という手仕事と具象表現にこだわりつづけた結果、誰もが親近感を持つ幻想と夢の世界を生み出したからだといえるでしょう。

本展は、オランダのエッシャー財団の全面的協力のもと約160点を一堂に紹介する貴重な機会となります。エッシャーの「不思議のヒミツ」をどうぞご堪能ください。

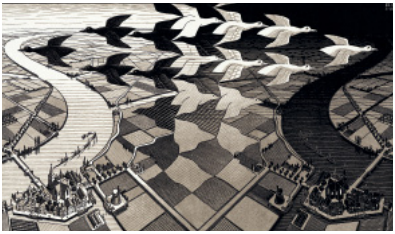
**開催概要**

開館時間　9:30 -18:00（入館は17:30まで）
休 館 日　毎週水曜日（ただし5月1日は開館）
会　　場　富山県美術館 展示室2、3、4
主　　催　富山県、エッシャー展実行委員会（富山県美術館、北日本新聞社）、NHK富山放送局、NHKエンタープライズ中部
協　　力　ARTHEMISIA | M.C. ESCHER FOUNDATION | Maurits
企画協力　NHKプロモーション
協　　賛　大谷製鉄、塩谷建設、ダイト、東亜薬品、東洋ガスメーター、日東メディック、前田薬品工業、リードケミカル、リッチェル（五十音順）
観 覧 料　一般1,500円（1,200円）、大学生1,000円（800円）、高校生以下無料
※（　）内は20名以上の団体料金

**イベント情報**

［講演会］
日時：5月12日（日）14:00　演題：「エッシャーが愛され続ける理由」　講師：熊澤 弘氏（東京藝術大学大学美術館教授）
※ギャラリートークなどの詳細は、当館ホームページやSNS等でお知らせします。

## 見どころと出品作品



左:《平面の正則分割Ⅲ》1957年　木版　右上:《昼と夜》1938年　木版　右下:《婚姻の絆》1956年　リトグラフ
表紙:《相対性》1953年　リトグラフ
Maurits Collection, Italy. All M.C. Escher works © 2024 The M.C. Escher Company, Baarn, The Netherlands.
All rights reserved　mcescher.com

## POINT

### エッシャーの作品、約160点が一堂に展示

本展では、エッシャーが学生時代に制作した作品にはじまり、「だまし絵」的な代表作はもちろん、最後の作品に至るまで約160点の作品を通してエッシャーの画業の全容を紹介します。中でも、エッシャーが故郷のオランダを離れ、イタリアに滞在した時代の作品は豊富で、エッシャーが20~30代という活動的な時期に制作した風景を主とする作品には、後の代表的作品のルーツを見出すことができます。

### 版画での卓越した表現

エッシャーの制作技法は版画で、木版、リトグラフ等を用いて作品を制作しています。複雑、繊細で謎が多い作品の数々は、大変細かな手仕事の彫り作業で制作されています。水彩画や油彩画は制作せず、版画というジャンルにこだわり続けました。それゆえ、エッシャーは自分のことを「芸術家」ではなく「版画家」と考えていました。デジタル社会の現在、誰もが簡単な操作で画像の複製、反転、グラデーションなど、さまざまな表現ができます。それだからこそ、アナログな版画という技法で卓越した表現を行ったエッシャーを、より新鮮にとらえることができるでしょう。

### 体験型展示でエッシャーの世界観に入り込もう!

本展では、エッシャー作品の世界観を疑似体験することができる体験型展示があります。どういう原理で人は錯覚に陥るのか、エッシャーが作品に取り入れた「トリック」について、実際に体験しながら、その技術的理論を学べます。自分自身でエッシャーのヒミツの世界を体験することで、より深くエッシャー作品を理解できるでしょう。また、展覧会会場では、映像資料を除き、作品や体験型展示はすべて撮影可能です。お気に入りの作品と一緒に写真を撮ったり、体験型で面白い写真撮影に挑戦したり、エッシャーの世界をより楽しんでいただける場となっています。

# 民藝 MINGEI―美は暮らしのなかにある

## 2024年7月13日（土）- 9月23日（月・祝）

ポスタービジュアル　Design：永井裕明

約100年前に思想家・柳宗悦（やなぎむねよし）は、市井の人々の暮らしで用いられてきた手仕事の品に美を見出し、民衆的工藝＝「民藝」と呼びました。本展では、そうした民藝の品々約150件を展示します。

「第Ⅰ章:1941生活展」では、柳自ら1941年に日本民藝館において企画した「生活展」の再現を試みます。また、「第Ⅱ章:暮らしのなかの民藝」では、市井の人々によって作られ、用いられてきた品々を、衣・食・住という切り口からひも解きます。

「第Ⅲ章:ひろがる民藝」では、富山県八尾（やつお）の和紙など国内5つの産地の“いま”を紹介する展示や、現在の民藝ブームをけん引するセレクトショップ「MOGI Folk Art」のディレクター、テリー・エリスと北村恵子が世界各地で見つけた品々と現代の暮らしを融合した「これからの民藝スタイル」をインスタレーションとして提案します。

柳が説いた生活の中の美、民藝とは何か、そのひろがりと今、そしてこれからの姿を展望する展覧会です。

### 開催概要

| | |
|---|---|
| 開館時間 | 9:30 -18:00（入館は17:30まで） |
| 休館日 | 毎週水曜日（8/14は除く）、7/16、9/17 |
| 会場 | 富山県美術館2階　展示室2、3、4 |
| 主催 | 富山県美術館、北日本新聞社、北日本放送、朝日新聞社、東映 |
| 特別協力 | 日本民藝館 |
| 協力 | 静岡市立芹沢銈介美術館、カトーレック |
| 協賛 | 立山科学グループ、トヨタモビリティ富山（五十音順） |
| 観覧料 | 一般1,300円（1,000円）、大学生650円（500円）、高校生以下無料、一般前売り1,000円<br>※（　）内は20名以上の団体料金 |

### イベント情報

［トークイベント］テリー・エリス氏／北村恵子氏（MOGI Folk Art ディレクター）×吉田泰樹氏（桂樹舎 代表取締役社長）
日時：2024年7月13日（土）14:00～15:30　会場：富山県美術館 3階 ホール　聴講自由・参加無料

［講演会］森谷美保氏（美術史家・本展監修者）
日時：2024年8月4日（日）14:00～15:30　会場：富山県美術館 3階 ホール　聴講自由・参加無料

［ギャラリーツアー］本展担当学芸員が見どころなどについてお話します。
①2024年8月24日（土）14:00～14:30　②2024年9月7日（土）14:00～14:30
集合場所：2階 展示室4（本展会場入口内すぐ）、参加自由　※企画展観覧券が必要です。

### ワークショップ

「八尾和紙型染め体験」（2日目程）
本展にも出品されている、八尾和紙を製作する桂樹舎の吉田泰樹氏をお招きし、八尾和紙に型染めし、封筒などを作ります。
［1日目］8月10日（土）14:00～15:30　［2日目］8月12日（月）14:00～15:00
会場：富山県美術館 3階 アトリエ　講師：吉田泰樹氏（桂樹舎 代表取締役社長）
参加者数：12名　対象年齢：小学生～大人（小学生の場合は要保護者同伴）　参加費：無料　事前予約制
※このワークショップは、2日かけて行います。どちらか1日のみのご参加はできません。
※内容は予告なく変更になる場合があります。※会期中のイベントの詳細は、当館ホームページやSNS等でお知らせします。

## 見どころと出品作品

左：角酒瓶　小谷眞三　倉敷　1979年／酒瓶　小谷眞三　倉敷　1985年頃／栓付瓶　メキシコ　20世紀中頃
右：鹿沼箒　下野鹿沼（栃木）　1939年頃
すべて日本民藝館蔵　photo: Yuki Ogawa

## POINT

### 第Ⅰ章：1941生活展— 柳宗悦によるライフスタイル提案

1941（昭和16）年、柳宗悦は自身が設立した日本民藝館（東京・目黒）で「生活展」を展開。民藝の品々で室内を装飾し、いまでいうテーブルコーディネートを展示しました。暮らしのなかで民藝を活かす手法を提示した、モデルルームのような展示は当時珍しく、画期的でした。第Ⅰ章では実際に出品された作品を中心に、「生活展」の再現を試みて、柳が説いた暮らしの美を紹介します。

### 第Ⅱ章：暮らしのなかの民藝— 美しいデザイン

柳宗悦は、陶磁、染織、木工などあらゆる工芸品のほか、絵画や家具調度など多岐にわたる品々を、日本のみならず朝鮮半島の各所、中国や欧米などへ旅し、収集を重ねました。時代も古くは縄文時代から、柳らが民藝運動を活発化させた昭和にいたるまでと幅広く、とりわけ同時代の、国内各地で作られた手仕事の日常品に着目し、それらを積極的に紹介しました。第Ⅱ章では民藝の品々を「衣・食・住」に分類し、それぞれに民藝美を見出した柳の視点をひも解きます。

### 第Ⅲ章：ひろがる民藝— これまでとこれから

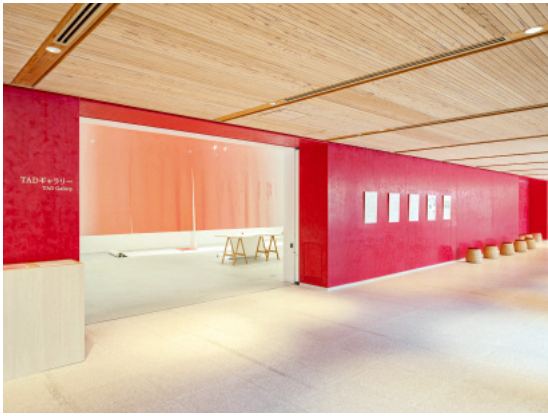
柳宗悦の没後も民藝運動は広がりを見せました。濱田庄司、芹沢銈介、外村吉之介が1972（昭和47）年に刊行した書籍『世界の民芸』では、欧州各国、南米、アフリカなど世界各国の品々を紹介。各地の気候風土、生活に育まれたプリミティブなデザインは民藝の新たな扉を開きました。
一方、民藝運動により注目を集めた日本各地の工芸の産地でも、伝統を受け継いだ新たな製品、職人たちが誕生しています。本展では国内5つの産地から、これまでと現在作られている民藝の品々や、そこで働く人々の“いま”を紹介します。
そして、本章最後では、現在の民藝ブームの先駆者ともいえるテリー・エリス／北村恵子（MOGI Folk Art ディレクター）の愛蔵品や、世界各地で見つけたフォークアートが“いま”の暮らしに融合した「これからの民藝スタイル」を、インスタレーション展示で提案します。

# アーティスト@TAD 大田黒衣美「Boiled Aqua」

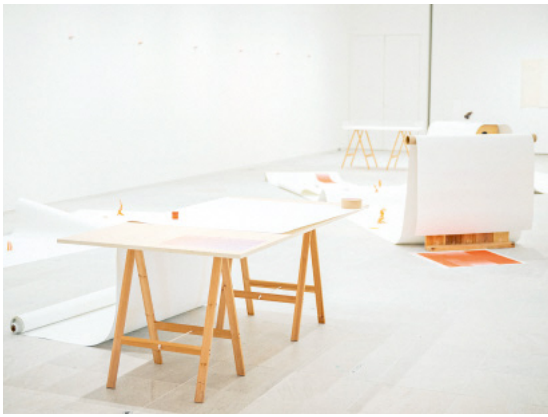
### ギャラリー展示
2024年4月4日（木）ー6月4日（火）　会場：1階 TADギャラリー

### 公開制作
2024年3月19日（火）ー31日（日）　会場：3階 アトリエ

### ワークショップ「持ち歩ける地獄・浄土をつくろう」
日時：2024年3月17日（日）13:30-15:30
会場：3階 アトリエ　対象：小学生以上～大人
参加者数：12名　参加費：無料　要申込




アーティスト@TAD（アートタッド）は、国内外で活躍するアーティストを富山県美術館（TAD）に招き、滞在制作や作品展示を行う企画です。公開制作やワークショップを通して、アーティストの制作手法や考え方を紹介するとともに、その成果を含む作品展示をTADギャラリーで行います。
本企画は、はじめに富山県内各地のリサーチから始まりました。残暑厳しい9月の「おわら風の盆」に始まり、立山の山の端が色づく11月には黒部や魚津の沿岸部の水産業をリサーチしました。さらに、3000m級の山々を誇る立山連峰を中心に全国各地に広まっていった山岳信仰「立山信仰」について興味を持ち、フィールドワークと資料の双方から理解を深めました。
これらのリサーチに基づいて、大田黒はシロエビやズワイガニといった富山の海産物、そしてこの地に伝わる山岳信仰「立山信仰」に着目して3月初めから約1か月、富山に滞在し、作品制作を進めました。
その間、3月17日には「持ち歩ける地獄・浄土をつくろう」と題した関連ワークショップを実施。小学生から60代以上の方まで幅広くご参加いただきました。
このワークショップでは、「立山信仰」の教えを広めるために大きな役割を持った「立山曼荼羅」の一部分を、参加者がアクリル板に模写し、キーホルダーやイヤリングなど身に着けることのできるアイテムの形にして、かつて立山曼荼羅が持ち運びやすい巻物の形にして全国に運ばれ、教えを広めていった過程を追体験するものです。
参加者がそれぞれ興味を持った立山曼荼羅の一部分を模写し、カラフルなペンで色を付けました。その後、オーブンを灼熱地獄に見立て、数十秒熱を加えると、それぞれ思い描く地獄や浄土の様子が小さなアクリル板として現れました。



オープンラボ

## 「リピする！パタパターンうちわ」

M.C.エッシャーの作品に登場する繰り返し図形「テセレーション（繰り返し）※」。今回は、おりがみを使って「テセレーション」図形をつくり、図形を敷き詰めたオリジナルデザインうちわをつくります。

※「テセレーション」…
ある図形を繰り返し、隙間や重なりなく敷き詰めていくこと。

**開催概要**

開催期間　2024年4月25日（木）- 6月30日（日）
活動時間　10:00 -12:00／14:00 -16:00　※入場は30分前まで
会　　場　3階オープンラボ
定　　員　24名　※1テーブルにつき4名まで
対　　象　こども～大人までどなたでも

---

イベント

いろいろやっ展（てん）　みる＋つくる＋発表する

## アトリエ・ドキュメント2024

**2024年6月27日（木）- 8月25日（日）**

ワークショップの様子

富山県美術館では、美術作品の鑑賞だけではなく、アトリエを中心とした、みる・つくる・学ぶといった双方向的な美術の体験活動を年間を通して提供しています。本展は、2023年1月から2024年3月までの間、当館にて実施した「TADワークショップ」「オープンラボ」などの教育普及活動に参加されたみなさんの作品や報告パネルを色とりどりに展示した展覧会です。ご自身やお知り合いの方が参加されたプログラムを探したり、カラフルな展示風景や作品を撮影したり、自由にお楽しみいただけます。

**開催概要**

開館時間　9:30-18:00（入館は17:30まで）
休 館 日　毎週水曜日（8/14は除く）、7/16（火）
会　　場　富山県美術館1階 TADギャラリー
主　　催　富山県美術館
観 覧 料　無料

---

トピックス

## 新館長 荻布（おぎの）佳子（よしこ）よりご挨拶

4月から館長に就任しました荻布と申します。
開館から7年を迎える当館は、アートとデザインをつなぐ場となることを目指した美術館であり、水辺と緑が美しい富岩運河環水公園に面し立地しています。20世紀美術の国内屈指のコレクションを誇り、雄大な立山連峰を望める開放的な空間、子どもたちの元気な声が響くオノマトペの屋上など、多彩な特長や魅力を有しています。アトリエやギャラリー等を活用したワークショップなど、見る、創る、学ぶ、の双方向の美術体験にも力を入れています。子どもから大人まで幅広い年代の様々な方々に楽しんでいただける開かれた美術館となるよう、魅力的な展示や企画をお届けし、訪れてくださる皆様が、思い思いのスタイルで豊かで幸せな時間を過ごしていただけるよう努めてまいります。
皆様のご来館を心よりお待ちしております。

# 《ボーリアリス・シェアーズI》 ロバート・ラウシェンバーグ

1990年　スクリーンプリント、真鍮・アルミニウム・ポリカーボネート

© Robert Rauschenberg Foundation / VAGA at ARS, NY / JASPAR, Tokyo, 2024 X0249

椅子のような形状をした作品です。真鍮板に時計、鶏、自転車など様々なイメージが刷られ、そこにパティナ（緑青）が施されています。その前面に重ねられているのは、ポリカーボネート樹脂の板です。透明な樹脂が光を反射し、真鍮板にも金属光沢があるため、画面上のイメージを正確に捉えることは困難です。タイトルの「ボーリアリス」（borealis）とは北極付近で発生するオーロラを指す語であり、ラウシェンバーグがスウェーデンを旅した際にオーロラを目撃したことをきっかけに名付けられました。鑑賞する角度によって色合いが変化する画面は、たしかにオーロラの光を思わせます。

タイトルの他にも、「旅」から影響を受けて制作されたとうかがわせる点があります。制作年の1990年は、国際巡回展「ラウシェンバーグ海外文化交流」（Rauschenberg Overseas Culture Interchange 通称:ROCI（ロッキー））の終盤にあたります。ラウシェンバーグは批評家の東野芳明との対談で、このプロジェクトの構想を語り、巡回展を通じて異文化に身を投じようとする志向を明かしました。1985年のメキシコに始まり、ソ連、中国、日本など――第三世界や共産圏といったアメリカとは大きく慣習の異なる国々を含む――11カ国を巡回し、現地で協働を繰り返したROCIは、まさに異文化との交流でした。ラウシェンバーグはROCIを進めながら、世界各地で写真を撮影しています。以前は雑誌などからイメージを引用していたのに対し、ROCIの巡回先ほか、作家が実際に訪れた場所の写真を繋ぎ合わせていることが本作の特徴です。

個別の写真がどこで撮影されたのかは判然としません。しかし、画面上部の時計の文字盤は、旧オルセー駅（フランス・パリ）の時計台のものであると判明しています。訪問先で撮影した複数のイメージを散りばめ、旅立ちを連想させる駅の時計を象徴的に配した本作は、ラウシェンバーグにとっての旅の心象風景であるといえるでしょう。

（学芸課学芸員　渡辺 俊夫）

※参考文献：
・東野芳明『つくり手たちとの時間―現代芸術の冒険―』岩波書店, 1984.
・José Castañal and Oona Doyle ed, *Robert Rauschenberg Borealis 1988-1992,* Galerie Thaddaeus Ropac, 2019.
・Robert Rauschenberg Foundation WEB（https://www.rauschenbergfoundation.org/）

富山県美術館（TAD）
〒930-0806 富山県富山市木場町3−20（富岩運河環水公園内）　tel.076-431-2711　fax.076-431-2712　https://tad-toyama.jp/

2024年5月発行